

# 神戸学院大学大学院 人間文化学研究所

人間行動論専攻  
地域文化論専攻



2021年度  
入試説明資料

2020年 7月

# 人間文化学研究科の特徴

神戸学院大学人間文化学研究科は、社会科学系の2研究科、理科学系の3研究科に次ぐ6番目の研究科として、1994年に修士課程が、1996年に博士後期課程が設置されました。

本研究科修士課程には人間行動論専攻と地域文化論専攻、2つの専攻があり、9つの講座（人間行動論専攻は人間環境論、人間形成論、社会構造論、社会関係論。地域文化論専攻は、文化構造論、芸術文化論、言語文化論、表現言語論、歴史情報論）に分かれています。博士後期課程はこの専攻を基礎に更なる研究を続けることができるようになっています。（なお、2019年度より心理学研究科が設置されたこととともない、修士課程心理学専攻の2つの系および博士後期課程人間行動論専攻行動発達論講座は募集を停止しています。）

入学定員は人間行動論専攻の修士課程が1学年4名、地域文化論専攻は6名です。博士後期課程の入学定員は人間行動論専攻が2名、地域文化論専攻が2名ですから、収容定員は計32名ということになります。

「人間文化学研究科」は、人文科学の領域を体系的に捉えることを意図した研究科です。各基礎分野にしっかりした足場をもちつつ、来るべき時代の要請にも十分に応えうるような、学際的で創造的な教育と研究を志向しています。20世紀後半に発展した行動科学を基盤としつつ、人間行動の根源を訪ね、人間行動が醸成し生み出した文化の真髄を見なおそうというのが、本研究科の目指すところであり、2つの専攻に課せられた課題です。将来は優れた研究能力をもつ学究を輩出し、科学と社会の要請に応えていかなければならないと考えています。

修士課程の2年間の教育は、各分野の演習を基盤にしてリサーチワークを実施しながら、1年次には方法論を重視した講義と、より専門化し同時に幅をもたせることを目指した特殊講義、そしてトレーニングに重きを置いてコースワークを学ぶワークショップが各講座に用意されています。他講座の講義も受講できますから、学生諸君は自らの中に独自のブレンドを作り上げていくことも可能です。博士後期課程の3年間は特別研究による研究指導を基軸としてリサーチワークの深化を図っていきます。また、コースワークとしてワークショップを受講することもできます。

大学院入学後、学生たちは少人数で教員と距離の近い演習・授業を通じ、また読書、文献の渉猟、実験や野外調査などを通じて、明るく充実した大学院生活を送っています。入学生の内訳を見ると、本学学生はもちろん、他大学、社会人、さらには外国人留学生など多様な人材が集まってきており、それにとまって研究活動も次第に多様になってきました。

修士課程については、すでに200名以上の修了者（心理学専攻除く）が出ています。本学または他大学の博士後期課程に進学している者も多くいます。その他の就職先は、教員、公務員（市役所、警察本部など）、そして一般企業（商工、海運、印刷、広告、製造業など）で自分の能力を発揮しています。博士後期課程についても、毎年のように課程博士の学位取得者が出ていますし、博士論文での学位取得者もいて、大学や研究施設などで働いています。こうして、人間文化学研究科において研鑽をつんだ学生諸君は、さまざまな場所で社会の要請、時代の要請に応えることの出来る人材として育っています。

## 人間文化学研究科の理念

人間文化学研究科は、神戸学院大学の建学の精神「真理愛好・個性尊重」に則り、真理の探求をとおして真に人間的で豊かな社会をつくること、とりわけ現代に求められる三つの目標「グローバルな知識基盤社会」「活力に満ちた地域社会」「伝統を愛し新しい文化を創造する社会」の達成を追求しています。

## 人間文化学研究科の目的

人間文化学について高度な専門的かつ総合的な研究を行い、その研究成果を教育の場や実社会において実践できる人材を育成するだけでなく、創造的・自立的な研究能力をもつ優れた研究者の養成を目指します。

## 2021 年度第 1 次募集 入試日程（修士課程）

研究科	出願期間	試験日	試験地	合格発表	入学手続期間
人間文化学 研究科	2020/8/21（金） ～ 8/28（金）（必着）	9/12（土） ※予備日 9/20（日）	有瀬キャン パス	9/17（木） ※予備日に実施し た場合 9/25（金）	9/18（金） ～ 9/30（水）（必着） ※予備日に実施した 場合 9/28（月） ～ 10/5（月）（必着）

## 2021 年度第 2 次募集 入試日程（修士課程）

研究科	出願期間	試験日	試験地	合格発表	入学手続期間
人間文化学 研究科	2021/1/13（水） ～ 1/20（水）（必着）	2/15（月）	有瀬キャンパス	2/19（金）	2/22（月） ～ 3/1（月）（必着）

## 2021 年度 入試日程（博士後期課程）

	出願期間	試験日	試験地	合格発表	入学手続期間
人間文化学 研究科	2021/2/3（水） ～ 2/10（水）（必着）	2/19（金）	有瀬キャンパス	2/24（水）	2/25（木） ～ 3/4（木）（必着）

## 人間文化学研究科 アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

### <<人間文化学研究科>>

人間文化学研究科は、次のような学生を求めています（修士課程の下記4は教員志望者のみ）。

#### 【修士課程】

##### 1. 知識・技能

人文科学の諸分野について、4年制大学卒業相当の基礎的な知識と研究方法を身につけている。

##### 2. 思考力・判断力・表現力

人文科学の諸分野にかかわる課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導き、社会に向けて発信することができる。

##### 3. 主体性・協働性

人文学の知見にもとづき、他者と協働しつつ、自主的に学修することができる。

##### 4. 教員免許状を所有している。とくに学校等の教育現場に関心を抱き、専門性をもって次世代人材を育成することに強い意欲がある。

### <各入学試験における重点項目>

	一般	外国人	社会人	推薦
1. 知識・技能	◎	○	○	○
2. 思考・判断・表現	◎	◎	◎	◎
3. 主体性・協働性	○	◎	◎	○
4. 教職				◎

#### 【博士後期課程】

##### 1. 知識・技能

人文科学の諸分野について、修士課程修了相当の専門的な知識と研究方法を身につけている。

##### 2. 思考力・判断力・表現力

人文科学の諸分野にかかわる高度な課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導き、社会に向けて発信することができる。

##### 3. 主体性・協働性

人文学の知見にもとづき、他者と協働しつつ、主体的に研究を推進することができる。

## 人間文化学研究科 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

### <<人間文化学研究科>>

人間文化学研究科では、以下の能力を身につけ、所定の課程を修了して、学位論文の審査および試験に合格した者に、修士または博士の学位を授与します。

#### 【修士課程】

##### （知識・技能）

1. 専門領域において十分な知識と技能を蓄積し、それを学問上の研究課題や実社会の諸問題に対して的確に応用することができる。

##### （思考・判断・表現）

2. 自ら発見した問題に対して、広い視野に立ち、さまざまな角度から検討を加え、妥当な解決への道筋を提示できる。

##### （意欲・態度）

3. 次世代の「生きる力」を育み、多様な実践現場の人々と協働して、高い倫理観と高度な専門性にもとづいた貢献を果たすことができる。

#### 【博士後期課程】

##### （知識・技能）

1. 高度な専門知識と技能を習得し、それを実際に運用することができる。

##### （思考・判断・表現）

2. 主体的に研究・教育活動を計画・遂行し、独創的な研究によって学問的世界の発展に貢献することができる。

##### （意欲・態度）

3. 高い倫理観にもとづいた研究成果を積極的に社会に還元することによって、真に豊かな社会を開拓するために国内外で先導的役割を果たすことができる。

### <人間行動論専攻>

人間文化学研究科人間行動論専攻では、以下の能力を身につけ、所定の課程を修了して、学位論文の審査および試験に合格した者に、修士（人間文化学）または博士（人間文化学）の学位を授与します。

#### 【修士課程】

##### （知識・技能）

1. 広い学識と高度な専門知識ならびに適切な技能を用いて、現代社会の多様な要求にこたえることができる。

##### （思考・判断・表現）

2. 実践的かつ柔軟な思考能力を養い、社会のさまざまな分野で適切な貢献ができる。
3. 現代社会の複雑なしくみを理解し、高度な専門知識や技能を活用することで多様な問題に冷静に対応できる。

##### （意欲・態度）

4. 人間に対する深い理解をもち、さまざまな実践現場で中核的・指導的役割を担うことができる。

### 【博士後期課程】

#### （知識・技能）

1. 専門分野において高度な知識・技能とその運用能力を身につけ、人間性の理解と社会の発展に貢献することができる。

#### （思考・判断・表現）

2. 研究者・教育者・専門実務家として自立し、主体的に行動しながら独創的な研究により先導的役割を果たすことができる。

#### （意欲・態度）

3. 学界および社会に対して、高い研究倫理をもつ品格ある研究者として活躍することができる。

### <地域文化論専攻>

人間文化学研究科地域文化論専攻では、以下の能力を身につけ、所定の課程を修了して、学位論文の審査および試験に合格した者に、修士（人間文化学）または博士（人間文化学）の学位を授与します。

### 【修士課程】

#### （知識・技能）

1. 人と文化に関する豊かな学識と幅広い教養をもって地域社会と文化の発展に貢献できる。
2. 人と文化に関する専門分野の研究を深め、研究者として自立することができる。

#### （思考・判断・表現）

3. 独創的な研究を進め、自らの研究成果を学界および社会に還元することができる。

#### （意欲・態度）

4. 将来にわたって、学問・研究への関心をもちつづけ、さまざまな実践現場で専門知識や技能にもとづいた貢献を果たすことができる。

### 【博士後期課程】

#### （知識・技能）

1. 人と文化について高度な専門知識と技能を習得し、それを実際に運用することができる。

#### （思考・判断・表現）

2. 独創性に富んだ高い水準の研究成果を発表することができる。

#### （意欲・態度）

3. 研究倫理を尊重し、学界および社会に対して指導的役割を果たして多大の知的貢献を行うことができる。

## 人間行動論専攻・人間環境論講座

本講座の研究対象は、私たちを取り巻くすべての環境と人間との関係性である。中でも特に地球環境（自然環境）、特に海洋圏と大気圏を研究対象とし、それぞれの仕組みや人間活動が地球環境に与える影響等について探究する。

地球は地殻・マントル・核からなる「固体地球圏」、大気・海洋・陸水からなる「流体地球圏」、および地球中心から大気圏の外まで広がる「地球磁気圏」によって構成されている。これらの構成要素は、その内部および相互間でエネルギーや物質が絶えず循環し、互いに影響を及ぼしあっているため、地球全体が一つのシステムである。近年ではこのシステムに人間活動が大きな影響を及ぼしていることが次第に明らかになってきた。こうした観点から、本講座では、人間環境を考える基礎として地球環境と人間活動の関係性について研究する。

例えば、自然環境を考える上での重要なテーマの一つとして、地震や洪水等の自然災害がある。自然災害は、我が国では古くから人びとに恐れられてきたが、未だこれを克服するに至っていない。それどころか今後は人為活動が自然環境に影響を与えた結果として自然災害がさらに多発するとの観測もある。そんな中、自然災害によって生じる被害をいかに抑制するかが大きな課題になっている。この課題を克服するためには自然環境の実態把握と併せ、人間活動が自然に与える影響を正確に把握することがきわめて重要である。

一方、私たち人類の生存は、地球上にいる多くの野生生物に依存している。例えば一次生産者である植物は有機物の生産を通じて酸素や土壌等を供給するのみならず、地球上に多様な気候帯を創りだし、さらには生態系ネットワークや物質循環を通じて私たちが生きていく糧となる農作物や畜産動物、魚介類などの多くの生物資源を提供してくれている。また、それが織りなす多様な景観は私たちの精神文化の根源ともなっている。私たち人類が今後も生存し続けるためには、地球上の生物多様性を保全していく必要がある。そのためにも、私たちは生物の生息基盤をなしている海洋や陸上の自然、総じて地球環境の成り立ちを知っておく必要がある。

地球環境と人間活動の関係性を研究する分野では、その観測データを処理する際、様々な統計手法を用いることが多い。この講座では種々の統計手法を学び、統計学の考え方が理解できるようになっている。また、大量のデータを高速処理するためにはコンピュータを駆使することが必要である。例えば、表計算ソフトのExcelなども利用し、必要に応じてFortranなどのプログラミング言語を用いて独自のプログラム作成等も行う。

### ○講座の教員

鹿島基彦（かしまもとひこ） 准教授：専門分野「海洋物理学」

福島あずさ（ふくしまあずさ） 講師：専門分野「気候学・気象学」



# 人間行動論専攻・人間形成論講座

## 1 人間形成論の研究領域

教育学、生涯学習論、学校教育、社会教育の関係領域の研究

人間の誕生から、社会活動の中での成長と発達のプロセス、それはある意味、人間形成のプロセスである。その成長と発達にとって、重要な役割を果たすのが学校教育と生涯学習である。近年、我が国においては、社会参加と協働を重視した教育や学習が求められ、人生を豊かに生きるためには個人の成長と社会の発展の両面が必要とされる。本講座では、人間の成長と発達をその両面から、教育や学習を中心に分析・考察し、研究成果を得る。

## 2 研究者の紹介

- 立田 慶裕（生涯学習論、教育社会学）
- 井上 豊久（教育学、社会教育論、教育方法学）

## 3 現在の博士・修士院生

○2020年度現在、博士課程の研究者は1名、修士課程の研究者は6名である。

## 4 最近の修士・博士の研究者の研究テーマ

- 博士課程研究者：「地域コミュニティにおける家庭支援の在り方について」
- 修士課程研究者：「オンライン教育の課題についての実証的研究」
- 修士課程研究者：「PISA 調査から見る日本の国際学力の変化に関する考察」
- 修士課程研究者：「大学生のゲーム依存の改善に関する研究」
- 修士課程研究者：「地域における廃校活用に関する事例研究」
- 修士課程研究者：「体験活動を教育学の視点から見た不登校生徒のより良い発達に関する研究」
- 修士課程研究者：「防災教育プログラムの研究：小学生のための防災教育」

## 5 就職先

○学校教員、公務員、大学教職員、民間企業、NPO職員など

# 人間行動論専攻 社会構造論講座について

## 1、何を学べるのか

社会構造論講座では「人類学」の分野を専門的に学びます。文化人類学、霊長類学という人類学の中核を構成する2つの分野を、自己の関心に応じてバランスよく学ぶことができます。人類学研究の特徴は、フィールドワーク（現地調査）による生のデータ収集とそれを学術的に分析・整理し、まとめるとともに、その主張を普遍性をもった議論として展開するための広範で柔軟な視野を持つことにあります。こうした人類学特有の知識とスキルを学び、オリジナリティと説得力に富んだ学術論文を完成します。

## 2、専任教員と専門分野の紹介

早木 仁成・・・霊長類学  
三田 牧・・・文化人類学

## 3、どのような授業があるのか

- ・社会構造論方法論Ⅰ・Ⅱ・・・霊長類学、文化人類学の各分野の学説史や理論、調査の方法などについて学びます。
- ・社会構造論特殊講義Ⅰ・Ⅱ・・・担当教員の研究成果を交えながら、霊長類学、文化人類学における重要論文の読解、個別の研究課題の取り扱い方などについて学びます。
- ・社会構造論演習・・・各自の研究課題の発見、具体的調査・研究の立案と推進、学位取得のための学術論文の作成に関する指導を中心とします。
- ・社会構造論ワークショップ・・・フィールドワーク実習が中心。大学近郊の伝統行事などの調査を実施し、調査技術を習得します。

## 4、社会構造論講座におけるこれまで提出された修士論文・博士論文の一覧

### (博士論文)

(2007)「フィリピン・パラワン島における先住少数民族モルボッグの社会環境と生業活動に関する人類学的研究」

### (修士論文)

(1997)「野生ワオキツネザルの出産」

(1997)「南東カメルーンのバカ・ピグミーの子どもたち ー集い・遊び・採集・家事」

(1998)「ニホンザルの所有行動に関する研究」

(1998)「河川における伝統漁法ー兵庫県円山川と鳥取県千代川を中心として」

(1998)「香港宗親団体の変遷および現状についてー1996年～97年の調査より」

(1998)「小浜島の植物と民族ーうすれゆく植物知識の現状」

(1999)「満族の佛托媽々信仰ー吉林省伊通満族自治県の調査から」

(2000)「カメルーン南東部バカ (Baka) の狩猟採集活動ーその実態と今日的意義」

(2007)「野生ニホンザルの毛づくろい前の音声から会話の起源を考える」

(2018)「日本と中国の学校給食と食文化についてー中国の学校給食の発展のために」

(2019)「いかに戦死者に向き合うかー沖縄戦跡における慰霊の諸相から」

# 社会関係論講座

## ■何をするところ？

社会関係論講座の研究姿勢は、ある地域や社会に向き合い、現状を把握し、今に至った脈絡を理解し、将来について考えていくことにあります。地域や社会の現場での観察、関係者への聞き取り調査などのフィールドワークやデータ分析などの多様な研究手法を用いて、地域や社会の実像を描き出していきます。

## ■教員は？

▶矢嶋 巖（やじま いわお）人文地理学、地域環境学

大阪府・兵庫県の大都市郊外地域と但馬地方のスキー観光地域における水問題について、自然環境や人々の暮らしと社会、それらの関係性と変容の理解から研究してきました。現在は、明石市・加古川市・神戸市西区を中心に、東播磨地方の地域変容に迫っています。

▶金 益見（きむ いっきょん）文化社会学、教育社会学

日本の貸間産業を中心に近現代日本文化史の変遷を研究してきました。現在は、社会に生み出される差別の重層構造を明らかにするために、マイノリティ女性への聞き取り調査（夜間中学や識字教室で学ぶ在日女性の生活史）を中心に研究を進めています。

## ■どんな授業がある？

### 社会関係論ワークショップ

地域・社会研究のためのフィールドワーク術を学ぶ授業です。これまでに、西宮の繁華街、明石の漁村や城下町でフィールドワークや、文献研究を行ないました。

### 社会関係論方法論Ⅰ

学生の興味やテーマに合わせて輪読を行います。2020年度は、地域の環境および社会の成り立ち、それらの関係性理解のため、『図説京阪神の地理』を輪読しました。

### 社会関係論特殊講義Ⅰ

2020年度は日本の都市と村落の構造変容について、研究書にもとづいて講義しました。なお、講義内容は、受講する学生の修士論文研究に連動する形で毎年変わります。

## ■その他

座学からフィールドワークまでさまざまな授業があり、地域・社会問題に関する実践的な学びがあります。また、教職課程で必要なことも学べます（主に社会科・公民科）。

身近なことから社会について考えてみたい方に、ぜひ入ってきてほしいと思います。

# 地域文化論専攻・文化構造論講座

本講座の目的は、文化の構造そのものの組成を探求しようとするところにある。そのためのテキストは文学、音楽などの芸術作品であってもよいし、人口の流動など社会的な変位であってもよい。外界の変化が文化の構造にどのような影響を与えたか、別の言葉でいえば、当該文化圏がなにゆえに一定の文化構造を選択することになったかを多角的な視点から複合的に把握することが、本講座の研究対象となる。

この説明から理解できるように、本講座において取り扱う資料は、芸術学、歴史学、哲学、社会学、人類学などの多岐にわたる業績となる。本講座を専攻しようとする学生は、従って日本語のみならず欧米語の基礎的知識を有することが望ましい。これらを総合的な検討することで、近代化のモデルとなったヨーロッパ文化の本質を解明し、それを日本に導入したことの可否を問うことが強く望まれる。

## 本講座所属の指導教員

**赤井敏夫 (akai@human.kobegakuin.ac.jp)**

英語圏文化論

植民地研究 (ことにアイルランドとインド)

映像学 (インド映画)

**上田学 (mueda@human.kobegakuin.ac.jp)**

映画・映像学

日本学 (表象文化論、植民地研究)

博物館学 (フィルム・アーカイブ)

本講座での研究を志望する学生は、事前に指導をおおぐ教員とコンタクトを取って、相談することが望ましい。アポイントはメールを経由すること。

## 地域文化論専攻 芸術文化論講座

### \*芸術文化論講座の教育内容

当講座は、芸術文化を包括的に考察するにあたり、演劇・古典芸能・ダンスなどの「身体芸術」、クラシック音楽・現代音楽・民族音楽・ポピュラー音楽などの「音響芸術」、絵画・彫刻・建築・フォトグラフィー・デザインなどの「視覚芸術」の3つの分野を設定しています。

そして各分野に対して「創造・表現（俳優・音楽家・画家など創作者と作品）」・「運営・環境（ホールマネジメント・学芸員・コーディネーター・メディアなど作品を広める仕事）」・「享受・批評（観客・聴衆・批評家・研究者など作品を享受して新たな表現につなげること）」の3つの視点を持って考察していきます。

これらを通じて、芸術文化に対する総合的で幅広い知見を獲得するとともに、専門的な探求が可能になりレテラーを修得し、高度な専門家や研究者の育成を目指しています。

#### ☆次年度について

なお、次年度の指導対象分野は、主として「音響芸術」となります。指導者の専門は、芸術音楽の作曲であり、次いで楽曲の分析、音楽理論の研究、作品の研究、作品と演奏の批評です。これらの事項に関して、多角的、包括的且つ専門的に探究します。

研究対象は、西洋芸術音楽であるクラシック音楽や近現代音楽が中心となりますが、受講者の興味に従って、様々な素材を持ち込んでもらって構いません。但し、楽譜、音符をある程度読めることと、何らかの楽器（声楽含）の演奏もある程度できることが、この分野の最低限のリテラーとなります。

#### 担当者 宇野文夫

ピアノ・ソナタ第1～4番、室内楽第1～7番、歌曲「万葉参照」などを作曲。月刊「音楽現代」誌を中心に、音楽評論を執筆。

### \*大学院での履修や講義について

ほぼ全ての授業が少人数での実施となるため、集中して授業に取り組むことができます。毎回の授業の準備（レジュメ作成や文献読解に必要な語学課題など）は必須作業であると言えます

修士1年（M1）の間は、日々の課題に取り組みながら、自分の専門分野に沿って、情報収集を行い、研鑽を積んでいくことになります。指導教員との意見交換、他講座の教員や院生仲間との接触などから、ときに新たな知見を得るなどして、考察を深めていきます。そのようにして養われた幅広い視野と専門的な知識によって、2年では更に高度で専門的な研究に向かいます。

### \*大学院生活について

大学院と学部との大きな違いは、「一人一人にデスクが与えられ、複数人で研究室を共有する」ということだと言えます。さらに、芸術文化論講座の研究室では、複数の講座の方と部屋を共有することがあるため、研究生同士日々の研究生活において良い刺激を与え合うことができます。

## 言語文化論講座

**何をするとところ？** ⇒ 英語学・日本語学・言語学を学び、研究するところです。中学・高校の英語・国語の教員を志望する人も、英語・国語に関してより深く知り、考える力を身につけることができます。

**教員は？** ⇒ 2021年度に予定している講座教員と、それぞれの研究テーマは以下の通りです。ただし、院生の研究テーマは、指導教員と同一である必要はありません。

➤ 野田 春美

現代日本語学、特に文法。モダリティ形式（話し手の心的態度を表す形式）の中で、特に説明のモダリティを中心に考察を進めてきた。現在は、モダリティ表現の使用実態や、書き言葉における話し言葉の現れ、否定表現の特質などを研究している。

➤ 出水 孝典

英語学、特に認知言語学の知見を語彙意味論にどう取り入れるのかを研究している。最近ではその成果を生かした入門書兼概説書として、開拓社の言語・文化選書から『動詞の意味を分解する一様態・結果・状態の語彙意味論』、『続・動詞の意味を分解する一変化の尺度・目的動詞・他動性』を出版した。

**先輩は、どんな修士論文を書いている？** ⇒ 次のような修士論文が提出されています。

- 「ずいぶん」の特異性の考察 ―日本語教育における副詞の扱いの改善のために―
- 謙譲表現「お～する」の適格性に関わる要因
- 動詞 get の機能的展開：本動詞より補助動詞へ
- 依頼・命令・指示表現の日英比較：言語形式と推意の観点から
- 前置詞 beyond の意味論
- 「開く」を意味する動詞の自他交替：英語・日本語・中国語の対照研究

**試験を受けるには、どんな勉強が必要？**

⇒ 言語学の基礎的な素養が必要です。そのほか、英語学を学ぶ場合には、英語学の基礎知識と基本的な英語力が、日本語学を学ぶ場合には日本語学の基礎知識と、(留学生の場合) 研究を進めることができるレベルの日本語力が必要です。

**そのほか、注意することは？**

⇒ この講座は、英語がうまく話せるようになるための英会話クラスではありません。日本語を「お勉強」して上手になるための日本語学校でもありません。言語を研究の対象にし、追究しようという意志をもった方々に、ぜひ入ってきてほしいと思います。

## 地域文化論専攻 表現言語論講座

担当者： 中山 文 （日本語分野）

長谷川 弘基 （英語分野）

中村 健史 （日本語分野）

この講座のねらいは、それぞれ専門とするテキストについての「読みを深め」、そこから「様々な人間像を引き出す」ことにつきます。しかし、それが一般に想像されているほど容易な作業でないことは、「読み」というものの奥の深さととらえどころのなさを少しでも経験している人なら分かります。そして、「実像」だと信じるものが、実は「虚像」かもしれない危うさは常につきまといますが、それが逆に、奥深く学ぶということの面白さの源であり、新たなる探求の推進力ともなると考えています。

この講座には、二つの分野があります。日本語分野と英語分野です。

日本語分野の中山教授の講義では、日本の現代小説をテーマに、ジェンダー批評などの新しい文学批評の論文を読みます。それによって自分なりの読みを深めるトレーニングを行います。また日中戦争時代に花開いた越劇や話劇の台本を読みます。DVDなどの視覚メディアも利用しつつ、中国社会の歴史的変遷と演劇の特殊な役割について考察を深めることができると思います。中国の近代化に日本が与えた影響を読み取り、今後の日中交流の在り方を考えたいと思います。

日本語分野の中村准教授の講義では、中古・中世・近世の詩歌を取りあげ、注釈的に精読してゆきます。古典的な作品を読みこなすには、文法や語彙だけではなく、当時の人の発想法や、言葉の背後にある意味のひろがりを精密に追求し、理解してゆく必要があります。さらには、日本文学にはしばしば漢文学が大きな影響を与えています。両者を比較し、外国文化の受容と変容がどのように行われたかを考察することも、古典作品を読む際には重要になります。授業では、こうした方法を習得し、使いこなすために「訓練」を行います。当然、参加者は自主的・積極的な努力を求められることになるでしょう。題材としては各時代の和歌、日本人のつくった漢詩、時には連歌や物語、古注釈を取りあげる予定です。

英語分野の長谷川教授の講義では、主にテキスト分析の手法と、欧米の代表的批評理論に関して、実際の小説及び詩作品の読解・解釈を通して学びます。使用する言語は英語と日本語です。研究対象の作品には19世紀～現代の英米の作品を選びますが、参照のために日本文学から作品を選ぶこともありえます。作品を読み込む技術の習得を目指すとともに、個々の作品の細部の重要性を意識し、それが作品全体とどのように関連しているのか、細部と全体の関係を意識し、「正当な解釈」とはどのようなものでありえるのかを追求していきます。柔軟でオリジナリティーのある、しかし決して独善的ではない作品解釈ができるようになることを目標にします。

## 地域文化論専攻 歴史情報論講座

### 1 地域文化論専攻 歴史情報論講座の研究領域

- A 史料解読
- B フィールドワーク
- C 史料批判

以上の手法により、諸地域の歴史を研究する講座である。

### 2 研究者の紹介と担当授業

#### ○日本史分野： 森栗 茂一[博士(文学)]

歴史民俗学、聞き書きによる近代生活史、なかでも日本全国を歩いた宮本常一の著作のデータベースを活用し、世相から考える現代史、歴史文化を活かしたまちづくり、阪神大震災など災害史をふまえた減災計画、地歴探求教育等、歴史実践を研究する。

#### ○アジア史分野： 大原 良通[博士(文学)]

6世紀から8世紀のアジア文化交流史。チベットやシルクロード、遣唐使なんかも手がけています。芦屋の遺跡発掘、雲南やネパールの民俗調査、敦煌文書の調査、色々経験しました。そんな歴史の楽しさをみなさんと分かち合いたいと考えています。

#### ○西洋史分野： 北村 厚 [博士(法学)]

専門であるドイツ外交史については、外交文書を駆使した実証研究を行っています。ゼミでも西洋史に関する最新の論文を読みこみ、特に註のチェックを行うことで、実証的な歴史学や史料批判の方法を身につけます。マクロな視点からはグローバル・ヒストリーの立場から書かれた研究書を読んでいきます。

### 3 現在の博士・修士院生

「戦争双六の研究」(博士課程)、 「近代神戸の茶」(修士課程)

### 4 最近の修士・博士の研究者の研究テーマ

「近世ヨーロッパにおける騎兵の研究」、「東アジアの天文学」、  
「古代中国における京観」、 「神戸空襲の研究」、 「震災史の研究」、

### 5 大学院生支援制度、進路

○支援制度 学生支援機構の特別奨学生制度などがある。

○大学院では学部生のときに取得した教職の一種免許状を「専修免許状」にランクアップさせることができます。新指導要領の「地歴総合・探究」における資料読解の指導も可能な専修免許を持つ学校教員、公務員、国内外の大学教員・職員、博物館・資料館の学芸員、民間企業での専門職などでの活躍が期待されます。